

立願山楊谷寺縁起

抑當寺立願山楊谷寺本尊

大慈悲乃觀世音菩薩乃由来を

委ク尋たてまつるに人王五十一代平

城 天皇の御宇大同年中の草創

にて即洛陽ひんかし山清水寺千手千

眼の御尊容と同躰分身御長六

尺の薩捶にて、いにしへよりあまねく

西清水と名付来て、そのかみハ勅額

なんともありしとかや、福寿無量

衆生済度の御誓むなしからず、諸病悉

除、祈願円満の靈験あらたにまします故

まことにたうとき源谷座たつときいやし

きの品と遠近のたつときもわかす青陽

の處をわけ、三冬の雪の夕部までゆ

き々の詣てそ、まなく諸願をのく成就

して随喜の儀ふちをなす、されはにや

弘法大師ハ十三佛の谷々をかまへ、夫

婦岩をも封し置、金胎両部の表を

かきとり、女人の高野と名付たまひ、一度

此谷あゆみをはこふ輩は此世にては

無比の快樂を来世はかならず極樂

淨刹の往生更に疑なからんことをしめし

大師入定のため彫をかせたまふ匣石・独

鈷石なんどもありて、夜深人静まり

万境すみわたるつれくにはいとたう

とき鐘の聲もきこえ侍りとの恵心

の僧都ハ丈六の弥陀を一刀三禮に

きさみ安置して浄土谷と名付て

此谷に引こもり、欣求浄土の願ひ浅

からす念佛三昧を修し、心を真如の

嶺の月にすましめたまへはつねく

五色の菩薩たち影向ありて僧都諸

ともましふす其名今に朽やらす行

道石となんつたいつゝ、其名も楊柳の

水の白糸くりかへしわきてなかるゝ
瀧津瀬のかたはらに、五智の智水
を表して楊梅の井水に人間五
濁のけかれをすゝき、無垢の世界の道
しるハ、弘誓の海をわたらぬものもなか
らまし、扱また七十二代 白川院の
御宇、承保年中に水願上人勅命
を蒙り、輪輿丹青の建立ましまし
ぬ、後又七十六代 近衛院も御綸言
にてふたゝひ御再興ありしとかや
然る所に永仁・元弘の比の大地震山
も崩れて谷とや谷も埋れて、嶺と
なる飛鳥川のつねならぬ世のさはきに
おほくの僧房ゆりくつし、仏閣も打む
もれあとかたわかぬおりからも尊像
はさらにゆるするきたまハす、大悲の御
まなしりにいやましにいみしくおかま
れさせ給ふ故、かりに賤の茅屋に
うつすといへとも杉のふきめもまハラ
にて時雨も露も残る月影に
浄てたまるへしとも見えさりしを
残ルニ慶長十九甲丑(ママ)妙喜庵の沙門
芳室士筧といへる大徳二度たえたる
をつきすたれたるをおこし、七間四面の
本堂をいとなみ、東西にむけて安座し
たまひしより、當寺の中興と崇
奉る

于時

慶長十九年甲丑(ママ)七月十八日ニ右之縁起ヲ
奉写